ハヤブサ　*Falco peregrinus* Tunstall

【選定理由】

現在県内で繁殖期に生息しているのは、多めに見積もっても 10 ペア以下である。繁殖期に成鳥の記録が多くなったのは 1990 年頃からで、名古屋の市中心部では 2000 年の繁殖期に 1 ペアの生息が確認されているが、県内では 1995 年以前の営巣記録は残されていない。繁殖期の確認数は増えているが、これまで見逃していた可能性も否定できない。ただし、越冬期の生息数に増加傾向は見られないので、さらなる調査が必要である。

【形　態】

雄は全長 38～44.5cm で翼開長 84～104cm、雌は全長 46～51cm で翼開長 111～120cm。成鳥では、頭部、上面、尾羽は黒味の強い青灰色で、下面は白く胸から腹、脇、脛にかけて細かい横斑がある。頬には髭状の黒い斑があり、目の周辺に黄色の縁取りがある。幼鳥では、頭部、上面、尾羽が暗褐色で各羽に淡褐色の羽縁があり、下面には明瞭な縦斑がある。飛翔時は、翼先端が尖って見え、浅くて早い羽ばたきと滑翔を交えながら直線的に飛ぶことが多い。

愛知県碧南市, 2008 年 4 月 28 日, 高橋伸夫 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

山地から平野部、沿岸部や島嶼まで県内のほぼ全域で確認されているが、山地での繁殖はごく限られている。近年は平野部の都市周辺で、繁殖期の確認が目立つようになっている。

【国内の分布】

留鳥として北海道から九州の山地や平地、海岸などに生息するが、冬鳥として沿岸部や平野部に飛来するものも少なくない。

【世界の分布】

南極圏を除き広く世界中に分布する。亜種の分類は、17～19 亜種に分けられている。

【生息地の環境／生態的特性】

崖や高いビル、煙突などに営巣する。県内の繁殖期は概ね 4 月から 6 月と思われるが、ほぼ周年ペアでいる例もある。通常飛びながら空中で鳥類を捕獲しており、繁殖期の獲物は小型の鳥類であることが大半であるが、非繁殖期にはカモやキジなど大型の鳥類も捕食する。

【現在の生息状況／減少の要因】

県内では繁殖期に、2009 年には 4～5 ペア程度、現在では 10 ペア程度以下の生息が確認されている。以前の営巣地が消失した例もあり、繁殖の増加傾向は調査の努力量増加によるものもある。

【保全上の留意点】

本種の獲物として、最も一般的で多いのはシギ・チドリやカモなどの水鳥である。県内から水鳥の生息環境が激減しており、水辺環境の復元が求められる。

【特記事項】

沿岸部に生息する個体では水鳥の捕食例も多いが、飛ぶことの少ないクイナ類の捕食例も少なくない。2017 年の春、県内では数例の記録があるだけのシロハラクイナの捕食も確認されている。

本種は、種の保存法で国内希少野生動植物種及び国際希少野生動植物種に指定されている。

【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂　日本の鳥 550　山野の鳥, pp.128-129. 文一総合出版, 東京.

（高橋伸夫）